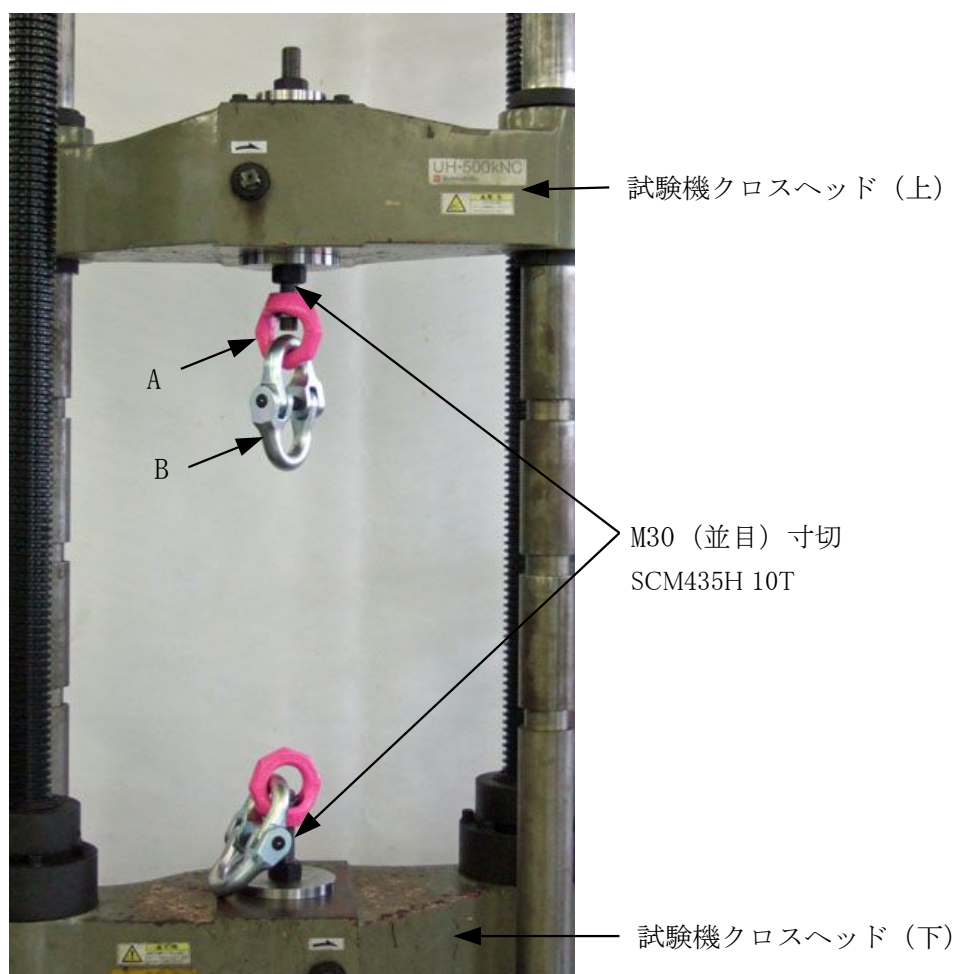


【ねじ式引張試験ジグ】

試験機に設けたM30おねじを利用して試験体に荷重を負荷することができます。

1. 下図のように、ジグA(M30アイナット)やジグB(カップリング)を介して試験体と試験機とを接続することが可能です。
2. ジグA、Bなどを用いずに、M30おねじと試験体とを直接接続することも可能です。



このジグを用いるメリットは、以下のとおりです。

1. このM30おねじは466kN(ねじの保証荷重)まで負荷することができます。
大荷重の試験をシンプルな構成で行うのに役立ちます。
2. 試験機のつかみ具(くさび式チャック)を使用せずに荷重を負荷できるので、ストローク(クロスヘッドの移動量)を試験体の変形量とみなしやすくなります。
ストロークは、一般に次の量を含みます:試験体の変形量、チャック保持具内でのチャックの移動量、ジグの変形量、ガタの解消により生じる変位量。